

# アラブ・オープン大学の トランスナショナルな制度的展開に関する一考察

中島 悠介・保道 晴奈

## はじめに

近年、高等教育分野において国境を越える高等教育（トランスナショナル高等教育）が急速に進行し、その形態の1つとして外国高等教育機関の海外分校（以下、海外分校と略）が挙げられる。特に、中東湾岸地域は世界でも有数の海外分校の受け入れ地域であり、例えば、アラブ首長国連邦（UAE）では約40の海外分校が設置され、その隣国のカタールにも約10の分校が進出している。これらの海外分校の多くは欧米諸国や南アジアの高等教育機関である一方、上記の国々には全人口のうち外国人が約9割を占めているという社会的特質を備えており、海外分校はこれらの外国人の子どもや留学生が多く就学することで発展してきたとされる<sup>(1)</sup>。このような、ある国の高等教育機関が国境を越えて他国に進出する状況は、他の湾岸諸国においても見られるものである。

本稿において分析の対象とするアラブ・オープン大学（Arab Open University）は、2002年に中東湾岸地域に位置する小国であるクウェイトで設置された私立大学である。2018年6月時点でオマーン、バーレーン、ヨルダン、レバノン、エジプト、スーダンに1校ずつ、サウジアラビアに5校のキャンパスが設置されており、この地域において最も積極的に国境を越えて展開している高等教育機関となっている（図1）。アラブ・オープン大学は「Open University」の名称のとおり、eラーニングを中心とした遠隔教育（Distance Education）を利用してプログラムを提供している。このように、アラブ地域の多くの国々においてキャンパスが設置されているアラブ・オープン大学は、どのような国境を越えた展開を示しているのだろうか。

アラブ・オープン大学の遠隔教育というプログラムの提供形態から、先行研究でも遠隔教育に着目したものがみられる。Al-Fadhli（2009）はアラブ・オープン大学のクウェイトブランチを対象とし、遠隔教育の受容に影響を与える要因を分析しており、学生の学びにおける満足度は、「コンピューター利用能力」「技術的要因」「社会環境」「指導者の性質」の4つに影響され、遠隔教育の整備のみに執心するのではなく、これらをバランスよく展開することが必要であると指摘している<sup>(2)</sup>。また、Ahmed and Hassan（2005）は1990年代からアラブ諸国において遠隔教育を提供する高等教育機関が急速に増加している一方で、それらの質を保証するための制度が

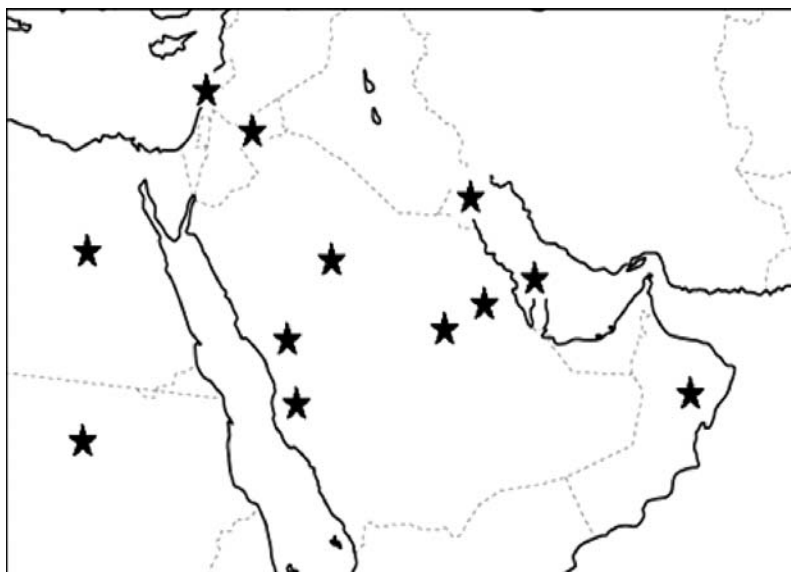


図1 アラブ・オープン大学が立地する国々に

出典. Arab Open University. 'AOU Branches map' (<http://www.arabou.edu.kw/index.php/component/k2/item/77-agfund>, 2018年6月10日取得)より筆者作成。

不在であり、アラブ諸国において各国の社会的環境に沿った形で質保証の枠組みを整備する必要があることを述べている<sup>(3)</sup>。最後に、Zakari and Alkhezzi (2010) は遠隔教育を提供する高等教育機関として、アラブ地域においてどのような役割を果たしているのかを明らかにしている<sup>(4)</sup>。このようにアラブ・オープン大学に関する先行研究はいくつかみられるが、いずれも遠隔教育の観点から考察したものがほとんどであり、高等教育機関自体が国境を越えてどのように展開しているのかについて、検討したものは少ない。

このような問題関心から、本稿では、アラブ地域の多くの国々においてキャンパスを設置するアラブ・オープン大学がどのように国境を越えて展開しているのか、主として本校と分校をつなげる制度的側面から明らかにすることを目的とする。こうしたアラブ・オープン大学の国境を越えた展開を示すことは、中東地域における高等教育部門のネットワーク化についてより広く明らかにすることにつながるとともに、東アジアなど他地域における高等教育部門の地域的連携にも参考になる点で意義があると考えられる。

以上の目的を果たすため、第1節においてアラブ・オープン大学の本校が立地するクウェイトにおける高等教育制度の整備状況を示し、第2節においてアラブ・オープン大学の概要を「設置の経緯」「本部の組織構造」「ブランチの組織構造」「教員の採用プロセス」「学生の属性」から整理する。そして第3節において、アラブ・オープン大学の国境を越える展開について、制度的側面から考察する。分析の手法については、現地で収集した英語文献の資料を検討するとともに、アラブ・オープン大学クウェイトブランチの学術関連ディレクター補佐である Mohamed Sayed 氏に対してインタビュー調査を行った (2018年2月21日実施)。

## 1. クウェイトにおける高等教育制度の整備状況

クウェイトにおける教育の枠組は憲法が規定し、法令等によって補足される。高等教育については1966年に制定された憲法第29条により、クウェイト大学と高等教育の到達目標について、経営と財務を管理する原則、入学許可に関する規則、および学位の授与と同様に定義されている。第29条第5項では高等教育には特別に予算が組まれなければならないこと、また、それ自身が財務管理を行う責任があることが明記されている。さらに教育大臣決定(1967年10664号)では、私立の教育機関が教育省の管理対象となることが規定されている。この法令は私立教育機関を管理する金銭面の規則、私立学校のシステムと試験、職員や人材、私立教育機関が学校・解散となる際の根拠と手順に関する条項を含んでいる<sup>(5)</sup>。

クウェイトの教育は教育省、学校教育管理、高等教育省によって共同で運営されている。高等教育省は大学や専門学校に相当する学校で行われる高等教育に関して責任を持ち、クウェイト大学と職業教育に特化した応用教育・訓練公共機構(Public Authority for Applied Education and Training、以下PAAETと略)を監督している。PAAETは専門学校に相当する技術教育機関かつ職業訓練施設であり、中等教育の修了者に対し2年間の教育プログラムを提供している。また、私立大学協議会(General Secretariat of Private University Council)は高等教育省大臣の管理下に置かれており、私立大学及びそれに準ずる高等教育機関の連帯組織である。クウェイト国内において展開する私立大学は、その質保証として私立大学協議会から適格認定を受けることが求められる。

クウェイトにおいて教育制度自体の整備が始まったのは1970年代後半から1980年代前半であった。その背景には急速な人口増加と都市化の拡大、それによる教育需要の増加がある。教育制度の整備の過程では1999年までに文教地区(educational zone)が制定されると同時に、ワクフ・イスラーム省が協力し、イスラーム学に特化した14歳以上向けの教育施設が設立されるほか、クウェイト大学やPAAETにおいて生涯教育プログラムが提供されるようになっていった<sup>(6)</sup>。大学教育において学士取得に要する年限は4年間(8セメスター)と定められている。ただし工学は5年間(9セメスターないしは10セメスター)、医学は7年間(3段階の教育プログラムを履修する)の年限を要する。また修士学位取得には2年間、博士学位取得には最低3年間の年限が定められている<sup>(7)</sup>。クウェイト国内の高等教育機関の展開については、2018年時点では唯一の国立大学であるクウェイト大学の他に、私立大学協議会より認可を受けている20校の私立高等教育機関が確認できる<sup>(8)</sup>。大学への進学率は、クウェイト人(Kuwaiti)が18.78%、非クウェイト人(Non-Kuwaiti)が14.56%、また、大学以外の高等教育機関への進学率は、クウェイト人が11.45%、非クウェイト人が4.40%となっている<sup>(9)</sup>。

このようにクウェイト国内において高等教育機関が整備される中で、欧米諸国やオーストラリア等の大学のカリキュラムをもとにした高等教育機関も多く設立されている。湾岸工科大学

(Gulf University for Science and Technology) は米国の大学であるミズーリ大学セントルイス校 (University of Missouri at St. Louis) との戦略的提携のもと、2002年に設立されたクウェイトで最初の私立大学である。2004年には、クウェイト・米国大学 (American University of Kuwait、以下 AUK と略) が設置され、男女共学の米国型のリベラルアーツ教育を提供している。AUK はクウェイト国内の私立大学協議会からの適格認定とともに<sup>(10)</sup>、米国の適格認定機関である米国リベラル教育アカデミー (American Academy For Liberal Education) や工学・技術適格認定委員会 (Accreditation Board for Engineering & Technology) からも適格認定を受けており<sup>(11)</sup>、まさに米国型の教育を提供する私立大学として捉えることができる。また、2008年には、米国インディアナ州のパデュー大学との提携のもと、中東・米国大学 (American University of the Middle East)<sup>(12)</sup>が設置され、経営管理に関する学士・修士課程を提供している<sup>(13)</sup>。

本稿で取り上げるアラブ・オープン大学は、2002年にクウェイトの Talal Bin Abdulaziz 皇太子 (以下、Talal 皇太子と表記) により、持続可能な開発と非営利の教育プロジェクトとして設立された私立大学として位置づけられる。Mohamed Sayed 氏に対して行われたインタビューによると、運営コストに当てられるために授業料は徴収されているものの、大学の敷地はクウェイト政府から提供されたものであり、その他の資金も政府からの援助を受けているということがわかった。こうした点から、アラブ・オープン大学は私立大学ではあるものの、とりわけ資金面において公的部門との強固なつながりを保持していることが看取できる。

## 2. アラブ・オープン大学の概要

本節では、アラブ・オープン大学の展開について、「設置の経緯」「本部の組織構造」「ブランチの組織構造」「教員の採用プロセス」「学生の属性」の観点から整理する。これらの情報を取得するにあたり、文書化されている資料も少ないため、前述の Mohamed Sayed 氏へのインタビューを中心に取り上げる。

### (1) アラブ・オープン大学の設置の経緯

アラブ世界において非営利のオープン大学を設立する構想は、AGFUND (the Arab Gulf Development Programme) の代表であるクウェイトの Talal 皇太子によって提示されたものである。1996年、Talal 皇太子は非伝統的な教育施設として、また、科学的、社会的、文化的側面における発展を先導することに貢献する基礎として、アラブ・オープン大学の設立の考えを公式に提唱した。この方向性は、英国のオープン大学 (The Open University、以下、英国オープン大学と表記) との戦略的なパートナーシップに基づき、2002年におけるアラブ・オープン大学へと発展したとされる<sup>(14)</sup>。2000年9月、アラブの高等教育大臣の会合において5つの国ぐにがアラブ・オープン大学の本部を抱えることを提案し、2000年12月には、それらの中でクウェ

イトがアラブ・オープン大学の本部として選定された<sup>(15)</sup>。現在ではクウェイト、レバノン、ヨルダン、サウジアラビア、エジプト、バーレーン、オマーン、スーダンにおいてブランチが設置されている。

2002年の開学以降、アラブ・オープン大学は英国オープン大学との戦略的なパートナーシップのもと、高等教育プログラムを提供することを進めてきた。本部の理事会は、卓越した教育の質と、学生に対して同等の学習機会の保証を提供するという前提に基づいて、アラブ・オープン大学の委任統治を行ってきたとされる<sup>(16)</sup>。また、英国オープン大学のパートナーとして、アラブ・オープン大学は「2010年4月英国平等法」を順守しており、それぞれの国ぐににおける法的枠組みの中に解釈され、適用されることとなる。この法律を通して、アラブ・オープン大学は人種、国籍、宗教、性別、妊娠や妊婦、障害、年齢、社会的・経済的身分に基づいた差別を取り除くことに取り組んでいくとされている<sup>(17)</sup>。

上記の理念を果たすには、すべての人に対して教育を提供することが重要であり、また、そのために低いコストで教育を提供することが目指されている。このため、アラブ・オープン大学で求められるコストは、クウェイト・アメリカン大学などの他の大学の10分の1ほどとなっているという。実際にアラブ・オープン大学は私立大学だが、キャンパスはクウェイト政府が無償で提供しているため、こうしたインフラの費用はTalal皇太子などによって支払われている。これらの状況から、学生から徴収される授業料は運営コストだけを賄っており、非営利大学としての性質を備えているといえる<sup>(18)</sup>。

## (2) アラブ・オープン大学本部の組織構造

まず、アラブ・オープン大学では本部(Headquarter)と各国においてブランチが設置されているが、本部はこれらのブランチの上部に位置しているというよりは、パレスチナに設置予定のものを含めたブランチの間で調整を行う役割を果たしているという。人的資源や適格認定に関わるようなブランチに関わる法律・規則は、それぞれ設置されている国ごとに異なっているため、本部はこれらの事項を調整し、適切な大学の内規を整備している。実際に、クウェイトブランチから本部に対して何か物事を要求する場合、それらの要望が本部へ送られるとともに、他のブランチとの調整が行われる。よって、ブランチから要望を本部に送り、大学内の委員会からの許可を得るまでは、ブランチにおいてそれらの要望を適用することができない<sup>(19)</sup>。

まず、本部における組織構造として理事会(Board of Trustee)の構成員を概観する。表1はオープン大学の本部に設置されている理事会の構成員を示しており、理事の多くは教育部門外の人物により占められていることがわかる。例えば、Dr. Yousef Al Ebraheemはクウェイト国王族つきの財政コンサルタントである。Dr. Mona Makram Ebeidは、過去にエジプトのワフド党の政治家として活躍したMakram Ebeidの娘であり、エジプトでは知名度が高い。このようにクウェイトのTalal皇太子がアラブ・オープン大学の設置を主導したが、ヨルダンやレバノンなどの他の国ぐににコンタクトを取り、理事会の理事を選出したとされる<sup>(20)</sup>。アラブ・オー

表1 アラブオープン大学（本部）理事会の構成員

理事長	Prince Talal Bin Abdul Aziz
共同理事長（ヨルダン王国）	HM Queen Rania Al Abdullah
バーレーン・アラブオープン大学執行委員会委員長	Dr. Ali Fakhro
前教育・高等教育大臣、クウェイト・アラブオープン大学学長	Prof. Moudi Al Humoud
アラブオープン大学建造物運営委員会委員長	HRH Prince Turki Bin Talal
アラブオープン大学アドバイザー（ヨルダン）	Dr. Mohammad Hamdan
クウェイト国・王室付き経済部門アドバイザー	Dr. Yousef Al Ebraheem
AGFUND 執行ディレクター（サウジアラビア）	Mr. Nasser Al Qahtani
外務大臣（イエメン）	Dr. Abu Baker Al Qirbi
ユネスコ地域オフィスディレクター	Dr. Abdel Moneim Osman
エジプト・シュエラ評議会委員	Dr. Mona Makram Ebeid
前エジプト高等教育大臣	Dr. Moufid Shehab
サウジ開発基金副理事長	Eng. Yousef Al Bassam
クウェイト国・アルガニム工業会長	Mr. Kutayba Alghanim
前高等教育大臣（シリア）	Dr. Hani Mourtada
エルサレム製薬カンパニー会長	Mr. Mohammad Masrouji
バイルートアメリカン大学副学長補佐	Dr. Imad Baalbaki
バグシャーン・グループ会長（サウジアラビア）	Dr. Abdallah Al-Bukshan
元教育・高等教育大臣（クウェイト）	Dr. Musaa'd Al-Haroon
アラブオープン大学学長	Prof. Mohammad Al-Zakari

出典. Arab Open University. 'Board of Trustees.' (<http://www.arabou.edu.kw/index.php/about/boardoftrustees>, 2018年6月27日取得) より筆者作成。

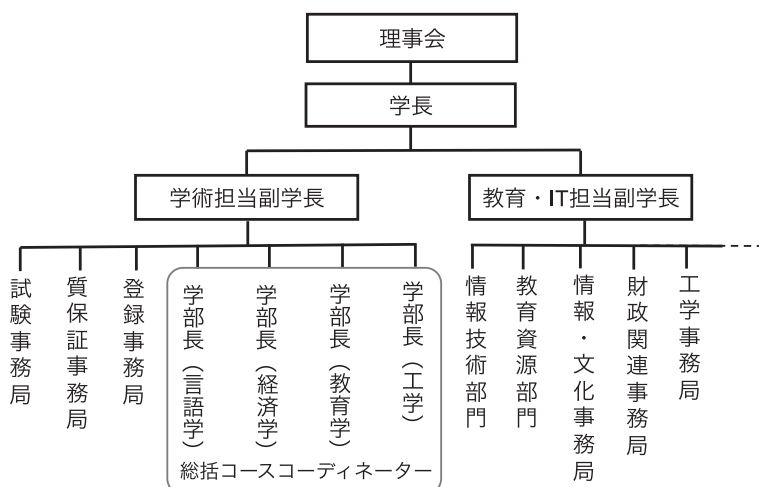


図2 アラブオープン大学本部の組織構造の概略

出典. アラブオープン大学クウェイトブランチの学術関連ディレクター補佐である Mohamed Sayed 氏へのインタビューをもとに筆者作成。

ブン大学全体の学長である **Dr. Mohammad Al-Zakari** も理事を務めている。この通り、アラブ・オープン大学本部の理事会には、文字通り、国境を越えて多くのアラブ諸国の要人が名を連ねている。

図2はアラブ・オープン大学本部の組織構造である。理事会のもとには学長が位置づけられ、さらにその下には学術担当副学長と、教育資源・情報技術担当副学長が置かれている。学術担当副学長のもとには学部長、登録事務局、試験事務局、質保証事務局が設置されている。本部に所属する学部長は「総括コースコーディネーター (General Course Coordinator)」として、地域全体のブランチにおけるコースの調整を行い、試験の結果等の確認を担っている。一方、教育資源担当副学長の下には IT 部門とともに、図書館や書店などを管轄する教育資源に関する部門も整備されている。

### (3) ブランチの組織構造—クウェイトブランチを事例に

このように、アラブ・オープン大学の本部では各国のブランチを統括するための理事会が設置されているが、それぞれのブランチにも理事会が設置されている。アラブ・オープン大学には大学全体を統括する学長がいる一方で、各ブランチには、ディレクター（国によっては「レクター：Rector」ともよばれる）が設置されている。ブランチにおける学部の代表はプログラムのコーディネーターも担っており、学術部門のディレクター補佐を設置している。例えば、コンピューター学部では、プログラムコーディネーターとしてブランチの学部長や副学部長が担当している。こうしたプログラムコーディネーターの機能の1つに、統一試験を各ブランチ間で調整することが挙げられる。本部の学部長総長 (General Dean) が学部長に試験を送付し、そのあとに学部長は試験を担当部局に送付することで、コーディネーターとしての役割を果たしている<sup>(21)</sup>。

学術プログラムについては、本部ではビジネス学部、コンピューター学部、教育学部、言語学部の4つの学部が置かれているが、クウェイトブランチに設置されているものはそのうち、ピ

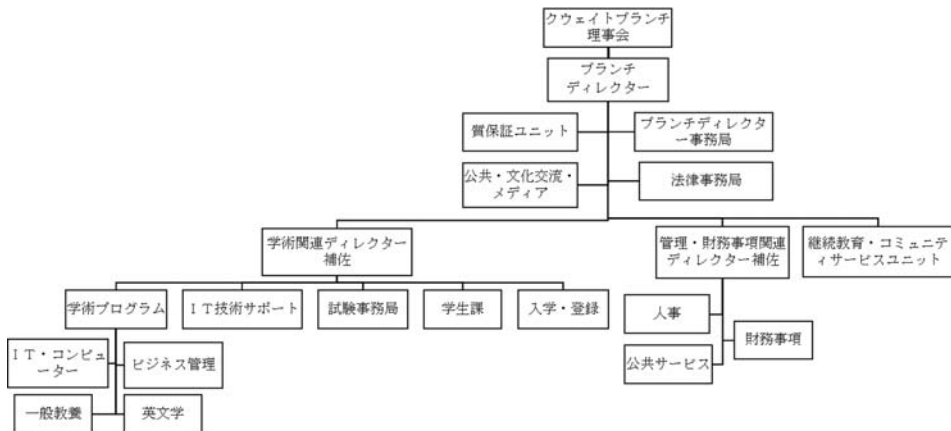


図3 アラブオープン大学クウェイトブランチの組織構造  
出典: アラブオープン大学における入手資料より筆者作成。

(134)

ジネス学、コンピューター学、言語学のみである。図3に示されるクウェイトブランチの組織図には一般教養 (General Studies) が含まれているが、Mohamed Sayed氏によれば、それは教育学部が提供されていない代わりに、一般教養を提供する部門に対して学部としての位置づけ (Deanship) を付与しており、本部の教育学部のもとに置かれているとされる<sup>(22)</sup>。

最後に事務部門について、財務事務局は現在、管理・財務関連ディレクター補佐の下に置かれている。また、質保証や継続教育に関する事務局はディレクターの直轄に置かれており、その重要性が認識されていた。質保証ユニットはディレクターの直轄にあり、試験に関する事項をはじめディレクター補佐との間で調整を行い、その結果をディレクターへと報告する。継続教育は主として学生のみではなく、大学外部の人々に継続養育のトレーニングを提供し、社会を支援することを目的としており、大学のミッションに直接的に関わることからディレクターのもとに位置づけられている<sup>(23)</sup>。

#### (4) 教員の採用プロセス

前述の Mohamed Sayed 氏によれば、アラブ・オープン大学における教員の採用プロセスは3つのステップに要約することができるという。第1に、本部からそれぞれのプログラムコーディネーター (もしくは各ブランチにおいて学部長 (Dean) と呼ばれる人物) にコンタクトを取り、それぞれの希望を尋ねる。もし各ブランチにおいて教員の採用を必要とする場合、プログラムコーディネーターは人事ユニットにコンタクトをとる<sup>(24)</sup>。第2のステップとして、プログラムコーディネーターに対して、特定の分野に絞る必要があるかどうか尋ねられる。例えば、IT分野であれば、ソフトウェア・エンジニアリングであったり、デジタル・コミュニケーションであったり、といったことが挙げられる。その後、新聞紙上や IEEE (The Institute of Electrical and Electronics Engineers) などの学会に公募の告知が出される。クウェイト出身の教員もいくらかはいるが、大多数はクウェイト外部から採用されるという<sup>(25)</sup>。

第3のステップとして、候補者から履歴書を受け取ったのち、それらが審査にかけられ、ディレクターを通してこれらの履歴書を本部へ、そして (採用) 委員会から大学の学長へと転送される。委員会には、学部総長を含み、ディレクターや副ディレクター、そして当該領域におけるクウェイト人の外部の第三者などを含むこともある。この3名もしくは4名の委員が、ビデオや対面形式を通してすべての候補者と面談したのち、適切な人物が選択される。その後、学部総長は、ブランチの人事ユニットではなく本部の人事ユニットへ正式文書を送り、そして学長へと送られたのち、受け入れの可否が決定される。受け入れが決まると、本部からブランチの人事ユニットへとジョブ・オファーが送られ、そのオファーが決まると新任教員を迎え入れるプロセスが開始される<sup>(26)</sup>。

#### (5) 学生の属性

最後に、アラブ・オープン大学に所属する学生について、クウェイトブランチを中心に概観す



る。まず、9つのブランチにおける学生数については、概算として、34,000人の学生を抱えているという。その中でもクウェイトブランチにおいては、2018年時点で登録されている学生数は8,170人であり、この数字はクウェイトブランチにおける最大収容人数に近い。実際には8,000人を超える程度の収容定員となっているが、所属学生のうち何名かは、特定の理由で退学をするためであり、結果的には8,000人程度の推移となっている。すべての学生が完全に学修を継続できるわけではなく、例えば、学生の中にはコース期間中に1学期間を完全に休学し、その後特定の理由により再度戻ってくる者もいるという。そのため、アラブ・オープン大学は柔軟性を備えており、学生のケースに応じて1回で2学期間、最大2年まで延期することが可能となっている<sup>(27)</sup>。

学生に性別についても上記と同様、日々変動するものとして捉えられているが、男子と女子の比率は約52%が女子で48%が男性とも述べられていた。クウェイト大学における学生の割合が、30%が男性、70%が女性となっている中で、比較的男女の割合が拮抗しているといえる。こうした男女の割合も専攻ごとで異なる状況を示しており、例えば、ITプログラムでは女性よりも男性のほうが多くなっている一方、英語プログラムでは女性が多数を占めており、ビジネスプログラムではその割合がほぼ50対50となっている<sup>(28)</sup>。

最後に国籍について、クウェイトブランチでは30~40%はクウェイト国籍をもつクウェイト人であるが、約60%は非クウェイト人が占めており、その中には無国籍者である「ビドゥーン」も含まれている。非クウェイト人学生のうちの大多数は、エジプト、レバノン、ヨルダン、シリアといったアラブ諸国出身であるが、少数ながらも、インド、パキスタン、イラン、ウクライナといった国々からの学生も在籍している<sup>(29)</sup>。

### 3. アラブ・オープン大学のトランスナショナルな制度的展開

本節では、これまでのアラブ・オープン大学に関する情報を参考にした上で、アラブ地域においてどのようなトランスナショナルな展開を示しているのかについて検討する。その際、主に英国オープン大学との連携と、アラブ域内のネットワークのあり方に焦点をあてる。

まず、前述の Mohamed Sayed 氏によれば、アラブ・オープン大学に対して、クウェイト国内における第三者質保証機関による評価は行われていないという。その理由として、英国オープン大学による質保証がとて強固であることを挙げている。実際に、英国オープン大学がアラブ・オープン大学の業務を監督していることから、英国オープン大学を外部質保証のように捉えることもできる。アラブ・オープン大学は英国オープン大学より「機関バリデーション (Institutional Validation)」として認可を受けている。このバリデーションによって、英国オープン大学はアラブ・オープン大学の質を保証しているが、アラブ・オープン大学においてプログラムを提供するためには、このバリデーションを受けることが求められ、また、このことはアラブ・オープン大学と英国オープン大学のパートナーシップの条件の1つに含まれている<sup>(30)</sup>。

この英国オープン大学からのバリデーションに加え、別の適格認定（アクレディテーション）による質保証を受けているプログラムもある。例えば、情報・コンピューターに関するプログラムは、英国の IET（Institute Engineering and Technology）より適格認定を受けており、その理由は、卒業生は英国から Title Charter Engineer の資格を得ることができることが挙げられていた。このため、IET はアラブ・オープン大学のプログラムに対して外部オブザーバーとしてチェックを行っているという<sup>(31)</sup>。

こうした英国オープン大学によるアラブ・オープン大学への関与は、「評価」とともに「監督」として捉えることができる。アラブ・オープン大学の学生は英国より修了証を受けているが、アラブ・オープン大学が試験の許可を得るために、その試験を英国オープン大学へ送付することが求められ、また、英国から許可を得るまでは、アラブ・オープン大学はどのような試験における結果も認めることができない。英国オープン大学は、アラブ・オープン大学において実施される試験やその結果、成績なども監督しており、また、学生のパスポートや市民 ID などとともに、英国へそれらの資料を送付しない限り、アラブ・オープン大学では学生に対して学位や卒業のための準備を進めることができない。実際に、学生のコースにより成績がつけられ、英国オープン大学がすべてのことを許可したのち、アラブ・オープン大学から学生に対して修了証を与えることができるという<sup>(32)</sup>。

このように、プログラムの内容や質、特に試験における学生のアウトプットについては、英国オープン大学により強固に管理されているといえる。そこで求められているのは、「ランチ間でいかに同等の学生のアウトプットを維持するか、英国オープン大学としてアラブ・オープン大学の質をいかに担保するか」ということであろう。アラブ・オープン大学は独立した高等教育機関でありながら、英国オープン大学がそこに所属する学生の情報を統括的に監督することで、その質を保障しようとしているといえる。

次に、アラブ・オープン大学のランチ間の連携ネットワークのあり方について、修士プログラムの提供形態を事例に取り上げたい。というのも、インタビュー中に見られた Mohamed Sayed 氏による下記の発言が、アラブ・オープン大学の地域的な位置づけを示していると考えられるからである。

「一般的に、私たちは（アラブ・オープン大学において修士プログラムを提供しているかどうかという）質問を他の人からも受けるし、私たちは「いいえ」と言いながらも、修士プログラムは持っている。というのも、私たちは、アラブ・オープン大学において、修士プログラムを持っているからであり、その場合には、私たちがアラブ・オープン大学について話すとき、私たちはクウェイトやレバノンなども含めて意味しているからである。よって、IT や情報・コンピューター科学、ビジネス、英文学において、修士プログラムをもっている。」

このように、「アラブ・オープン大学」という言葉には、地域的に広がっているランチを含

めた大学全体を示す場合と、各国において設置されているブランチ単体を示す場合があることは見逃せない。Mohamed Sayed 氏によれば、例えば、「クウェイトブランチにおいては、クウェイトの政府機関である公共大学委員会（Public University Council）による規制のために修士プログラムは提供されていない」とされる<sup>(33)</sup>。また、「現在学士プログラムが提供されていない教育学も含めて、今後1・2年以内に修士プログラムのための新しいプロポーザルを提出し、最終的にはPUCからの認可を得る予定である」とのことであるが、もしクウェイトブランチに所属する学生が修士プログラムでの学修を希望する場合、現時点ではレバノンやヨルダンのキャンパスに参加することができ、9月という早い時期に履修を開始することが可能となっているという<sup>(34)</sup>。

このように、修士プログラムの有無や学士課程学生の移動について、国境を越えた形でブランチ間が連携し、かつ、オープン大学というオンラインをベースにした教育形態により、アラブ地域において緩やかなネットワークが形成されているといえる。

## おわりに

本稿では、アラブ地域において国境を越えて展開するアラブ・オープン大学の展開について、主に制度的な側面から整理することを目的とした。アラブ・オープン大学は、クウェイトの Talal 皇太子により提案されたものであり、クウェイトブランチはクウェイトの高等教育制度に基づいて展開しているものの、各国に立地しているブランチはそれぞれの国の高等教育制度の枠組みの中で運営されている。一方で、アラブ・オープン大学の国境を越えた制度的な展開を見ると、組織構造や教員採用、試験制度等について、本部を中心としたブランチ間のネットワークが形成されていることが確認された。また、質保証の面では英国オープン大学が試験制度や学位・資格の授与などを通して監督しており、機関のバリデーションを受けるかどうかということはアラブ・オープン大学としての運営にも関わってくるため、大きな影響力を有していると捉えることができる。一方で、「アラブ・オープン大学」という言葉には、クウェイトブランチ単体として見る場合とともに、アラブ地域全体において展開している高等教育機関としての意味も持ち合わせており、この地域における国境を越えたネットワークとして展開されているという意識も垣間見ることができる。

アラブ・オープン大学の国境を越えた展開を検討するには、特に後者について、アラブ地域内の流動として見る視点も求められる。教学面では英国オープン大学の監督のもとにあるものの、たとえばクウェイトブランチでは約60%はアラブ系の非クウェイト人が占めていることから、アラブ諸国の共通の社会的・文化的基盤において展開していることが想定される。実際に組織面では、大学本部の理事会においてアラブ諸国各国の要人が就いていることから、その影響は大きいものと考えられる。しかし、学生や教員個人に焦点を当てた場合、どのような地域的なネットワークの文脈での営みがみられるのか、また、アラブの地域的なネットワークと教学面をはじ

めとした英国の価値観とすり合わせはどのように行われているのか、といったことは、今後もより詳細に検討する必要があるだろう。

注

- (1) Knight, J. (2014) *International Education Hub : Student, Talent, Knowledge-Innovation Models*. Dordrecht : Springer.
- (2) Al-Fadhli, S. (2009) 'Factors Influencing the Acceptance of Distance Learning : A Case Study of Arab Open University in Kuwait.' *Online Journal of Distance Learning Administration*. (<https://www.westga.edu/distance/ojdl/fall123/alfadhli123.html>, 2018年6月20日取得).
- (3) Ahmed, A and Hassan, M. (2005) 'Distance Higher Education in the Arab Region : The Need for Quality Assurance Frameworks.' *Online Journal of Distance Learning Administration*. (<https://www.westga.edu/distance/ojdl/spring81/mohamed81.htm>, 2018年6月20日取得).
- (4) Zakari, M. and Alkhezzi, F. (2010) 'The Role of the Arab Open University, as a Distance Education Institution, in Social Communication and Development in the Arab Region.' *Education*. vol.131, no.2, pp.273-287.
- (5) UNESCO. (2011) 'World Date on Education VII Ed. 2010/11.' (<http://www.ibe.unesco.org/en>, 2018年10月31日取得).
- (6) 同上。
- (7) 同上。
- (8) al-Amānat al-āmmat li majris al-jāmi 'āt al-khāṣat. 'al-muwasaṣāt al-ta'limiyat.' (<http://www.puc.edu.kw/UniversityListPage.aspx>, 2018年10月31日取得).
- (9) State of Kuwait, Central Statistical Bureau. (2017) *Abstract Statistical Abstract 2015/2016*. p.69.
- (10) The American University of Kuwait. 'The University.' (<http://www.auk.edu.kw/about-auk/the-university>, 2018年10月30日取得).
- (11) The American University of Kuwait. 'Accreditation.' (<http://www.auk.edu.kw/about-auk/accreditation>, 2018年10月30日取得).
- (12) American University of the Middle East. 'About.' (<https://www.aum.edu.kw/>, 2018年10月30日取得).
- (13) American University of the Middle East. 'College of Business Administration.' (<https://www.aum.edu.kw/cba/>, 2018年10月30日取得).
- (14) Arab Open University. 'Vision - Mission - History.' (<http://www.arabou.edu.kw/index.php/about/vision-mission-history>, 2018年6月20日取得).
- (15) Arab Open University. 'About The Univeristy.' (<http://www.arabou.edu.kw/index.php/about/vision-mission-history-2>, 2018年6月20日取得).
- (16) Arab Open University. 'Welcome Statement.' (<http://www.arabou.edu.kw/index.php/about/welcomestatement>, 2018年6月20日取得).
- (17) Arab Open University. 'Equal Opportunity and Respect for Diversity Policy of The Arab Open University.' (<http://www.arabou.edu.kw/index.php/about/equal-opportunity-and-respect-for-diversity>, 2018年6月20日取得).
- (18) クウェイトブランチの学術関連ディレクター補佐である Mohamed Sayed 氏へのインタビュー調査による (2018年2月21日実施)。
- (19) 同上。

- (20) 同上。
- (21) 同上。
- (22) 同上。
- (23) 同上。
- (24) 同上。
- (25) 同上。
- (26) 同上。
- (27) 同上。
- (28) 同上。
- (29) 正確な統計については公表されているわけではなく、手に入れるのは容易ではないという（クウェイトブランチのディレクター補佐である **Mohamed Sayed** 氏へのインタビュー調査による（2018年2月21日実施））。
- (30) クウェイトブランチの学術関連ディレクター補佐である **Mohamed Sayed** 氏へのインタビュー調査による（2018年2月21日実施）。
- (31) 同上。
- (32) 同上。
- (33) 同上。
- (34) 同上。